

第3回 鎌倉市学校整備計画検討協議会 議事録	
日 時	令和5年(2023年)1月13日(金)10時00分から12時00分
場 所	鎌倉商工会議所1階 102会議室
出席委員	黒木委員、佐藤委員、實方委員、高橋委員、梨本委員、河合委員、渡辺委員
欠席委員	倉斗委員、中尾委員
出席した職員 の職氏名	佐々木教育文化財部長、茂木教育文化財部次長兼教育総務課長、下澤学校施設課長、萩原学校施設課施設担当担当係長、渡辺学校施設課施設担当主事
そ の 他	(1) 新しい時代の学びを見据えた学校施設の目指すべき姿について (2) 緊急を要する学校施設について (3) 学校整備計画策定支援業務の進捗報告

事 務 局 (下澤課長)	(開会に当たり、協議会委員9名中7名の出席により、過半数である定足数に達していること、欠席委員から事前に連絡をいただいていることを報告)
高 橋 会 長	第3回鎌倉市学校整備計画検討協議会を開会します。
内容 新しい時代の学びを見据えた学校施設の目指すべき姿について	
高 橋 会 長	事務局から説明をお願いします。
事 務 局 (萩原係長)	<p>内容1「学校施設の目指すべき姿についてについて」を説明いたします。</p> <p>資料は、資料1「学校施設の目指すべき姿」と資料2「新しい時代の学びを実現する空間イメージ例」になります。</p> <p>令和4年(2022年)8月29日に開催されました「第1回鎌倉市学校整備計画検討協議会」におきまして、青いファイルに綴じた常用資料の一つとして、令和3年3月に策定した「鎌倉市学校施設長寿命化計画」について、少し説明いたしました。</p> <p>その際、この計画は、学校施設に関する長寿命化計画であり、学校施設の置かれている現状や実態を明示するとともに、目的や計画期間等を記載することで、教育委員会における学校施設の整備に係わる基本方針として、市の基本計画や実施計画を策定する過程において、関係課との協議・調整を行うための基礎資料としての活用や、この協議会の所掌事務でもある「学校整備計画」の検討の基礎データとするものであることを説明いたしました。</p> <p>「長寿命化計画」に記載した内容の一つに、安全性、快適性、学習活動への適応性、環境への適応性及び地域の拠点化のそれぞれの観点から、「学校施設の目指すべき姿」を記載しています。</p>

資料1「学校施設の目指すべき姿」を御覧ください。これは、「長寿命化計画」から「学校施設の目指すべき姿」を抽出したのになります。

各項目は、今となっては当然のことだと思いますが、本市の小中学校は建築年の古いものが多く、恥ずかしながら現状は、多様な学習活動等への対応、老朽化、バリアフリー化、環境配慮など、様々な課題を抱えています。

今後、学校施設の改築や長寿命化改修などを実施する場合、ここに示した項目の実現をできる限り図っていきたいと考えておりますが、本日は、前回、高橋会長、倉斗委員から先進事例として御説明いただきました「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方」を参考にしながら、こんな項目を掲げてよいのではないかと、それぞれの項目の実現に向け、こんな施設があったらよいのではないかと、こんな教室にしたらよいのではないかなどの御意見を、識者、保護者、市民、教職員の立場で頂戴できればと考えております。

それでは、資料を基に説明いたします。

まず、1の安全性です。(1)の災害対策は、東日本大震災を契機として、学校施設の非構造部材という、柱や梁、床などの構造体ではなく、天井材や窓ガラスなど、構造体とは区分された部分を含めた耐震対策や、避難所としての防災機能の強化の必要性が認識されています。

本市の小中学校は、耐震補強工事が完了したもの、昭和56年以降に建築されたもの、耐震診断により耐震性があると診断されたものを指す耐震化が図られています。また、非構造部材の耐震対策として、屋内運動場の照明器具を取り替えるなどの高天井耐震対策を実施しています。

今後の整備に当たっては、更なる非構造部材対策を実施したり、土砂災害警戒区域を含む学校については、建物配置や構造等において配慮したりしたいと考えています。

また、屋上が津波に対する緊急的な避難場所となるような措置や、備蓄倉庫や防災機能の強化が必要であると考えています。

次に2の防犯・事故対策です。児童生徒等にとって安全で安心な学校施設となるよう、防犯カメラの更なる充実や学校内をつなぐインターホンの設置などが必要であると考えています。

次に、3の快適性です。質の高い教育を実現していくためには、学校施設を児童生徒たちの学習・生活の場として、生きる力を育むために相応しいものとする必要があると考えています。(1)快適な学習環境では、老朽化したトイレ環境の改善や、エレベーターやスロープ、多目的トイレの設置などを、(2)教職員に配慮した環境では、教職員同士のコミュニケーション促進などのため、休憩スペースの整備などが必要であると考えています。

次に、4 学習活動への適応性です。(1)主体性を養う空間の充実や、(8)学校図書館の活用では、図書室に畳やカーペット敷きの空間を設けるなど、読書活動を促すための工夫や、各教室から図書室にアプローチしやすいように校舎の中心に配置することで、各教科の調べ学習や実験、観察のまとめなどに積極的に活用できるような整備が必要であると考えています。(2)効果的・効率的な施設整備や、(3)言語活動の充実、(4)理数教育の充実、(6)伝統や文化に関する教育の充実、(7)外国語教育の充実、(10)食育の充実では、習熟度別学習などのための教室整備や、プロジェクターなどICT環境の各教室への整備、教科別、用途別の教室の整備などが、(5)運動環境の充実では、充実した屋外運動場や屋内運動場の整備などが、(9)キャリア教育・進路指導の充実では、相談室などの整備が、(11)特別支援教育の推進では、特別支援学級教室などの整備が、(12)環境教育の充実や次の4環境への適応性では、地球温暖化などの課題への対応として、太陽光発電設備など再生可能エネルギー設備の導入や校舎、屋内運動場の断熱化、児童生徒等への環境教育に活用できるよう省エネ対策等の見える化などの整備が必要であると考えられます。

次に、5 地域の拠点化です。本市では、学校や子どもの抱える課題等について協議し、チームとして一丸となって解決に当たる体制をつくり、地域・家庭・学校のそれぞれが、目標や課題を共有することで当事者意識をもって学校運営に参画し、子どもたちが安心して学び合える、わくわくする学校づくりを目指しているとともに、学校施設は地域住民にとって最も身近な公共施設として生涯学習、スポーツなどの活動の場として利用される地域コミュニティの拠点でもあり、まちづくりの核になるものであることから、地域との連携を視野に入れた整備が必要であると考えています。

また、災害時には地域の応急避難所として高齢者等も利用することから、バリアフリー化を進めることが必要であると考えています。

説明は以上になりますが、なかなかイメージできないと思いますので、前回、緑色のファイルに綴じた「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について（最終報告）」に添付されている、「新しい時代の学びを実現する空間イメージ例」を御用意しました。

資料2「新しい時代の学びを実現する空間イメージ例」を御覧ください。

これは、新しい時代の学びを実現する空間イメージを絵で表現したもので、委員の皆さまもイメージしやすいと思います。ただし、タイトルのカッコ書きのとおり、未来思考の部分もあるので、御留意ください。

例えば、1 ページの 01 の絵では、タブレット、プロジェクターや電子黒板を用いた学びが展開されています。2 ページの 02、03 の絵では、教室と多目的スペースの連続性、一体性を確保しています。4 ページ 06 の絵では、階段状の空間を発表、表現等の場としています。5 ページ 08 の絵は、図書

	<p>室のイメージです。6 ページ 10 の絵は、職員室を含む教職員の執務空間のイメージです。7 ページ 12 の絵は、障害のある児童生徒と障害のない児童生徒が交流、共同学習を行うことができるスペースをイメージしています。8 ページ 14 の絵は、断熱性を高めて冷暖房設備を設置した屋内運動場のイメージです。9 ページ 16 の絵は、学校と他の公共施設を複合化、共用化したイメージです。10 ページ 19 の絵は、設置された太陽光パネルが、環境教育に活用されているイメージです。12 ページ、13 ページには、整備、活用内容が例示されています。以上で説明を終わります。</p>
高橋 会長	<p>ただいまの説明について、質問等がありますか。</p>
渡辺 副会長	<p>2 点ほど。一点目は、1 安全性の(1)災害対策イ津波・洪水に強い学校施設だが、鎌倉市はハザードマップを見ると、第一小学校と腰越小学校は津波浸水想定区域に入っていると思っていて、ここについては建て替えや改築などあるかもしれませんが、どのような形で行うつもりかということが1点。</p> <p>二点目として、5に地域の拠点化がありますが、市の公共施設再編計画の学校施設を見てみると、地域の拠点校という考え方を出している。それを踏まえた上での項目上げになっているのかの2点をお尋ねしたい。</p>
事務局 (下澤課長)	<p>まず、1 点目の災害対策の津波ですが、第一小学校は津波浸水が想定されており、対策が必要と考えています。校舎が北棟、南棟の2棟あり児童が北棟南棟を行き来できるような階段を設置しています。避難者のための出入り口は設置していないため、ドアを壊して中に入れていただくようになっています。避難階段は現状設置する場所がないため、防災部局と調整しながら検討していく必要があると考えています。校舎も古いので、基本的には改築に併せて津波に強い校舎に建て替えていくと考えていますが、移転して建て替えるのは難しいので、同じ場所で出来ることをしたいと考えています。藤沢市の海に近い学校を視察しており、参考にしながら考えています。</p> <p>地域拠点校についてお話がありましたが、市の取組として拠点校という考え方が示されているので、念頭に置きながら、学校施設の目指すべき姿として記載していきたいと考えています。ただし、公共施設を学校の中に入れていくことは、現状の建物を利用した長寿命化改修では面積的に難しいので、改築に併せて検討していくと考えています。</p>
渡辺 副会長	<p>1 点目の津波の関係ですが、第一小学校の避難所利用マニュアルを作成した際に、委員の中からも意見として出ていましたが、津波浸水想定区域内の建物に避難するのはどうかということでした。確かにあれだけの面積の場所は他にないが、だとしても現状想定されている数値が出ており、逃げようとしたときに、水に浸かっている建物に逃げるのは無理な話であり、</p>

	<p>根本的にどうするのかという問題が地域では出ているということを伝えておきます。</p>
高橋会長	<p>津波というのは鎌倉市の地形を考へても簡単な話でないですが、たつた今起るかもしれない地震に備えるという意味では、重要かつ貴重な意見であったと思います。急には無理だといふところがたくさんあると思ひますが、受け止めて、学校施設の目指すことは、子どもの命や健康を守るのが最優先と思ひますし、だからこそ1番の(1)にこのことが書かれていふ。気持ちは教育委員会も共有しているなど私は思ひます。できる限りで対応してもらいたいと思ひます。</p> <p>一方で、鎌倉市全体で学校を今後どう改修していくか、重要な検討事項・項目を上げていくという趣旨でもあると思ひるので、ここをこうした方がいいという意見・質問も大事だと思ひますが、こういう新しい観念もいるのではないかという意見も賜ればと思ひます。</p>
梨本委員	<p>第一小学校の話が渡辺副会長からありまして、私もちょうど子どもが第一小学校に通っている時に東日本大震災があり、校庭でなすすべもなくみな集合して、保護者も集まり非常に危ない状況だったなど思っているので安全対策はやっていただきたい。</p> <p>先生方の問題といふのも大きいところだと思ひます。私が関心のあるところで、3学習活動への適応性(8)学校図書館の活用は気になっていふます。司書教諭といふ先生方では難しいところがあると思ひるので、学校司書といふ位置づけの職員の方の充実であったり、そういった先生方の居場所、働く環境であったり、先生方の連絡が取りやすい施設を整えるといふことをしていただきたいと思ひます。学校図書館は郷土資料であったり本じゃないものの収集も含めて、学校図書館は情報センターであったり、学習センターであったりそういった機能の充実をしていただきたいと思ひていふますが、そのためにも施設の充実も含め先生方の働く環境の充実といふいますか、コミュニケーションをするためといふ視点を先生方の働く環境についてのところでも上がっていますが、充実していただけるといいなど思ひていふます。</p>
河合委員	<p>防犯のところ、不審者対応訓練をやったりするのですが、ベランダに出ていくといふのも心配で、そういうところについてもなにかいい工夫がされるといふのかなと思ひてみていふました。</p> <p>それから学習環境については、今でもグループ学習を行っていますが、お互いの声が混ざってしまいやりにくいところがあり、何かいい工夫がないものかと思ひていふます。</p> <p>教職員の環境についても、会議の場所が足りないといふ話を前回はさせていふいただきましたが、他にもいろいろな方々に学校には業務で入っていただいているので、職員室内に机など置ききれなくなっているものもありま</p>

	<p>す。そういう点でもスペースをどのように生んでいったらいいのかなと思っています。児童支援の関係では、保健室以外の別室の確保というのも難しい状況で、保健室にいて勉強を見てあげて、教室に行ってみようかと徐々に促すこともあります。別室で落ち着いて勉強が出来るというようなことが必要で、これには人もつかなければという問題もありますが、そういう場所の確保ができるとういなと思っています。最後の地域の拠点化については、現在でもコミュニティスクールの関係で、地域学校協働活動を進めていかないとと思っていますので、そういう点でも地域の方が今はコロナの状況でなかなか難しいが、入ってくることを想定した環境づくりも必要になるとと思っています。</p>
<p>實方委員</p>	<p>この資料を事前に見た時に一番気になったのは災害対策のところ、海沿いの小学校や中学校に関しては、早急に整備を進めないとういのは当然ですが、大きな津波や災害があった時に内陸の学校も受け入れられるような体制をとるような施設づくりをしていただきたいと思っています。特に観光地でもあるので夏とかにかあった時には、市内全域で多くの人を受け入れられるような施設づくりとういのも、地域の方と協力体制をして動くことになると思うので、必要なかなと思っています。</p> <p>あとは先生方の施設の使い方をうまくすることで、子どもたちの活動に返ってくるのかなとういところがあるので、教室の数を充実させるなども一緒に考えていただけたらと思っています。</p>
<p>佐藤委員</p>	<p>幼稚園の父母連合会から参加させていただいて、先ほども出ましたが、学校図書館の活用のところで幼稚園でも子ども会館が無くなってきていて、深沢の唯一残っているところも来年なくなることが決定したので、一年に1度市長への要望書という形で出させていただいているが、学校の図書館を乳幼児などにも活用できるように公開していただきたいとういことを今年も要望としてださせていただく予定です。地域の方たちもみんな利用できるとういなと思いながらずっときている。この間、息子のサッカーの関係で金沢区に行ったが、そこは学校の1階が図書館になっていて、そこをみんなが利用できる環境になっているところがあったので、いいなと思いました。地域の障害施設は先ほど難しいとうい話でしたが、それが今後出来たら素敵だなと思います。資料2を先ほど見させていただいて、こんな学校あったらいいなとういところが多く、先生方も素敵な休憩スペースで会議が出来たら充実した時間が送れるのではないかなと思います。富士塚小学校に障害の子が何人かいますが、学校に上がっていく坂が辛いので、学校に上がるとういところにスロープが欲しいとうい意見があったりしたので、中と外の両方にみんなが過ごしやすい環境が出来たら素敵だなと思います。</p>
<p>黒木委員</p>	<p>腰越なので津波とういのは、自分が小さい頃から教育をされていて、学校とういよりは、私たちも子どもを家において夜まで働くので、いつ地震</p>

	<p>が起きるかというところですが、地震が起きたら腰越中学校が避難所になっていますが、腰越中学校には行かないで山の上であるさる公園に行っておと日頃から伝えていきます。津波の被害に遭うところが避難所になっているというのは腰越も課題なのかなというところですが。腰越消防署を建て替えて消防署の上に車いすのまま上がれるようになったというのは、腰越地区の中では市の方の頑張りを評価したところであったと思います。</p> <p>学習面についてですが、中学の授業参観に長男の関係で行ったのですが、電子黒板と普通の黒板を使っていて、タブレットにそれが送られてくるというところで、凄いなと思う部分と書く力が落ちるな、とか、自分の中学と比べてタブレットを触っていて、ほんとに先生の話の聞いているのかなと思うところと同時に課題が見えた。授業参観にこのような会議に出たからこそそのような視点で見ってしまったのかもしれませんが、そのように思いました。</p> <p>あと地域の拠点というのは大事だなと思いますが、PTA 活動を見ていると思いますが、地域性があります。全部を同じようにする必要はまったくなくて、その地域にとっていい施設であれば他の地域にとっていい施設でなくてもいいのかなと思うので、地域の特性を取り入れるというところがベースにあったりするのかなと思います。そういう意味では町内会の方とPTA の関わり方とかは、この間の 150 周年の活動を見ている腰越はすごいやりとりがいいと思いました。そういう地域性を活かすといい施設が出来ていくのかなという風に思いました。腰越小学校は北校舎とかを全然使っていなかったりして狭いというよりは、こんなに使わない教室が増えてしまったのだなと思ったりもするので、そういうところをデイサービスで使うという大変ですが、そうすると核家族化しているところで、歳をとるということはこういうことだということがわかったり、違う教育ができるのではとあって、子どもたちにとっていい空間を考えるのも大事ですが、生きるとか人生とかそういうスケールで考えた時には年齢を超えてというのが地域の拠点化になるのかなと思います。逗子にアニエルチという NPO 法人があるのですが、アニマル・エルダリー・チルドレンといって、保育園とデイサービスが一体化しているところがあるんですけど、そこを見に行ったことがあり、そういうところの考え方も進んでいるなと思ったので、学校といいながらも地域にあるものなので、いろんな世代に関りがあるといいのかなと思いました。</p>
高橋 会長	貴重な意見ありがとうございました。全員の委員の意見を伺いましたが、事務局から何かコメントはありますか。
事務局 (佐々木部長)	各委員から様々な御意見をいただき、皆さまが御心配なところは、防災であり、災害対策として地震や津波に対してどのような学校施設をつくっていくかということになるかと思えます。災害にはここで示しているよう

に地震であったり、地震に伴う津波や洪水など様々あるかと思いますが、やはり学校施設は事務局から説明させていただきましたとおり、災害時は地域の恒久的な避難所になる機能がございまして、そういった役割をどのように付していくのか。そして当然のことながら、子どもたちが安心して安全に生活できる場にしなければなりません。そのための工夫を今後の学校施設づくりに活かしていかなければいけないと考えています。津波の浸水が想定される第一小学校やその他沿岸部の学校については、津波浸水想定外に移転して学校をつくれるかという、それだけの土地がありませんので、現状としては現在の場所でのように災害対策を施していくのかといったところを学校施設づくりとして考えていかなければなりません。

それとともに、教育委員会が学校施設をどのようにつくっていくのかという視点で考えていくわけですが、鎌倉市全体とすれば市民防災部という防災関係を扱っている部署があり、現在、地域防災計画という鎌倉市の防災のあり方を見直している時期でもありますので、皆さまが言われているように避難所として今後も指定していくのか、あるいは避難所から外していくのか。地震の時に学校が使えるのであれば避難所とするが、津波の時は行かないなど、今後市民の皆さまに周知していくことも地域防災計画の中で対応していく可能性もあるのかと話を伺いながら考えたところです。防災と連携しながら、子どもたちの安全を確保する学校施設づくりと市民の方々の避難所としての役割が保てるようにしていかなければならないと思っています。

地域拠点校は、鎌倉、腰越、深沢、大船、玉縄の各地域で1校、先ほどお話がありましたような図書館を入れたり、市民の方が集会が出来るような多目的スペースをつくったりすることを目指していくことが公共施設再編計画で位置付けられていますが、それに限らず学校としての図書館機能は、今後それぞれの学校の中で位置付けていかなければならないと考えていますし、教育委員会としては図書館を所管していますので、子ども読書活動推進計画の見直しを行っているところなので、その中でもこういった役割が出来るのか、また、委員から御意見がありましたように、乳幼児に対する読書のあり方を読書活動推進計画の中で補完しながら、連携して対応していければと思っています。

やはり地域の拠点化というのは、拠点校という位置付けではなく、まちづくりの核となるような学校という位置付けになっていくことと、先ほど河合委員からお話がありましたように、学校もコミュニティスクールということで地域の方々に支えてもらいながら、学校づくりをしていくということに取り組み始めたところなので、そういった皆さまの地域力を活用しながら学校づくり、子どもたちを育てていただく環境づくりを進めていきたいと思っています。施設というハード面だけにこだわらず、様々なソフ



	ト対策も併せて、地域特性を踏まえた中での取組を進めていけたらと考えていますので、引き続き御意見等をいただけたら幸いです。
高橋 会長	<p>少し提案ですが、委員のみなさまのご意見を伺っていると、1番の安全性についての意見が強いと思います。そこで地震に強い学校施設という書き方に委員のみなさまが心配しているのかなと思います。場合によってはここをもう少し具体化、もちろん最後に地域の特性を取り入れるというようにご意見がありましたので鎌倉市として共通する考え方を具体化してみる、例えば極端かもしれませんが、「地震に強い」の部分で、「誰一人命を落とさない」や「すべての子どもの命を守る」とかももう少し具体的にしていく可能性というのがあるかなと思います。図書館の方を見ると、「調べ学習や熟練度別学習、ティームティーチング」とか書かれています、一番大事な部分の抽象度が高いので、具体的な文言を検討したらどうかと思った次第です。最終的には事務局検討として整理してほしいですが、これからみなさまにここに入れるべきフレーズを言っていただいてそれを事務局の中で検討していただいて、鎌倉市が学校施設として目指すべき姿というようにしたらいかがかと思っています。</p> <p>渡辺副会長、ここに強いという言葉をもっと具体的にするとしたらどのような言葉がいいでしょうか。</p>
渡辺 副会長	<p>東日本大震災があった時に言われていたのは、一人も犠牲者を出さないということが言われていました。書き方としては難しいですが、高橋会長がおっしゃられたように、犠牲者を出さないような学校施設にしていくことは必要だと思います。どのような表現がいいかという難しいですが、考え方は一人一人の命を守ることが一番大切なのだらうと思います。</p>
高橋 会長	<p>強いという言葉が一人一人の子どもを命を守ると変わるだけでも方針として意味合いが変わってくるかなという感じがします。他にここに入れた方がよいと思う言葉がありましたら承りたいがかがでしょうか。</p>
梨本 委員	<p>安全性ということで、安全安心という言葉がよく言われているかと思えます。がちり安全というようにすると子どもとしても不安になるような環境は望ましくないと思いますので、子どもの安全と安心を守るというニュアンスが入るといいと思っています。4の環境への適応性というところで、空間イメージ例の中でも太陽光発電の話がありました。地震が実際にあると、自家発電の装置があるかなど2次災害に向けた対策が必要になるかと思えます。ですので、地震の最初の対策だけでなく避難生活を支えるような自家発電など、そういうことを環境とのSDGsとを結びつけていれるとより膨らみのある方向性が出るのかなと思いました。そういったエコスクール的なことを入れた安全対策みたいなことをいれるといいかなと思います。</p>

高橋 会長	<p>後半の話は、ゼブ(ZEB)やニアリーゼブ(NearlyZEB)といった話題の一つで、太陽光発電と蓄電池の組み合わせでエコと防災・災害時の対応の両方を目指すというような意見も文科省の会議ではあったかなと思います。お金のかかることなので、少し事務局で検討いただければと思います。1の安全性について話をしていますが、他にもこういった言葉を足した方がいいなどありましたらご意見を頂戴したいですが、いかがでしょうか。</p>
黒木 委員	<p>看護師をやっていて、神戸の地震の後に災害看護の勉強に行き、避難する場所と避難所は違うという話がありました。鎌倉でも津波に対してその時に避難する場所は高台ですが、津波が終わって次どこ行くかという生活の場としての避難所は違うということを間違えないでくださいと講師の先生がおっしゃっていて、学校というのは避難する場所というよりは、地震が終わった後、大規模災害があった後に生活する空間になるのかなと思いました。なので、津波に強くなっていいのかな、津波で流されるところは避難所ではないので避難所として生活しやすい場所がいいのかなということ思い出したところです。その時に、避難所を受け入れる際にむやみに受け入れるのではなく、家の並びと避難所の中の配置を同じにするとストレスがないというのがあってなるほどと思いました。好きなところにいってよいとなると場所の取り合いになってしまうが、ここは何丁目のなんとか町内会というようにして、さらにその中をお隣さんはお隣さんの人という感じで体育館の中に地域を持ってくるとストレスが少なく行政や医療が入った時に管理がしやすいと習って、なるほどと思ったので、避難所は結局そこで生活をしないといけないので、それが安全とか安心できるというところになるのかなと昔勉強したことをふと思い出したところです。神戸の時は、ぼろくても崩れなかったからそこが避難所になったらいいのでその時に行政が判断しないといけないのはすごい大変なことだなと思いました。</p>
高橋 会長	<p>委員の皆様のご関心は防災や地域の拠点化ということで市民が毎日暮らす施設として学校も期待されているわかり、学校施設の観点のところでは1と5が委員の皆様として大きいと感じた。</p> <p>委員の皆様からでた意見を聞いてここで足りない観点があるとする、校区ごとの属性が欠けていたのかもしれない。詳細設計など具体化していくところで地域の属性を加味するわけですが、ここの観点だけで決定ではないという意味も込めて、地域の属性を検討するという事項があってもよいと思いました。</p> <p>子どもの学習の様子から申し上げますと、非常に難しいが、今年から新しい学習指導要領の基盤となる点の検討が始まります。</p>

	<p>ますます知識を習得すればいいということではなく、実際に活用できるレベルまで高められるか、あるいは活用できるレベルの大切さに気付くかといったようなものになるかなと思います。</p> <p>年末にデビューした新しいAIを見ると、立派な答えをAIが返す。最近学生もそこに先生が出した課題をいれ、出てきた答えを見て、書き加えたりするぐらいで、要は、知識を単純に問うような話は、すべてAIに置き換わるように感じています。そう考えると、図書館の役割も重要な点ですが、本に書かれていることはAIが答えてしまうことを考えると、役割も変わってくるかと思っています。</p> <p>コミュニケーションをとったり、コミュニティのようなところに行けば誰か人がいて、議論ができるとかそのような本やAIで学んだ知識を具体化していくような拠点という意味で図書館や学習情報センターのようなものが重要になってくると感じています。</p> <p>鎌倉は現役時代、活躍した方がお住まいで、学校でさらに勉強したり子どもに教えたいと思っている方もいらっしゃると思う。それを地域の拠点化という話とつながって、子どもの勉強の場に学校がもっと機能するようになればと思っています。</p> <p>もう少し大きなことで言うと、このように項目を挙げると一つ一つの項目を充実させようと皆さん頑張るが、子どもから見ると外国語教育も伝統的な勉強も地域の人から勉強することも全部同じだと思うので、繋げてこれらの項目が発揮されて、鎌倉の子が健やかに育つみたいなイメージになるなど思いながら伺っていました。</p> <p>学習の考えが変わりつつあるということ、それから地域の拠点ということと子どもの学習が繋がって素敵な学びになればと思っています。</p> <p>何の項目を入れるのかという意見ではなく、それぞれの項目を繋げて考えてほしいという意見として考えて進めていくとよいのかと思います。</p> <p>他にこの点に関して意見はあるでしょうか。事務局何かコメントはありますか。</p>
事務局 (下澤課長)	御意見ありがとうございました。いただいた御意見を参考に今後の学校施設整備に役立てていきたいと思っています。
高橋会長	本件については、以上となります。
内容 緊急を要する学校施設について	
高橋会長	事務局から説明をお願いします。
事務局 (萩原係長)	内容2「緊急を要する学校施設について」を説明いたします。 資料は、資料3【差替】「緊急を要する学校施設について」になります。 第1回協議会において、本協議会における検討事項の一つとして、「緊急を要する学校施設について」を掲げさせていただきました。

	<p>現在検討している「学校整備計画」では、学校施設の改築・長寿命化改修・大規模改造の優先順位付けとして、整備する順番を決めたいと考えています。</p> <p>資料3「緊急を要する学校施設について」を御覧ください。</p> <p>1の「整備の優先順位決定のための検討項目候補項目」や優先順位の考え方などについては、現在「学校整備計画策定支援業務委託」の中で検討していただいているところですが、優先順位を決定するための項目としては、(1)の学校施設の老朽化状況として、校舎や屋外運動場の築年数や構造躯体の健全性、劣化状況評価の結果、(2)教育活動上の課題として、児童生徒数や学級数に対する校舎や屋内運動場、屋外運動場面積の不足や教室配置の困難度、バリアフリー化への対応、(3)児童・生徒数の推計、(4)学級数の推計、(5)災害リスクとして、土砂災害特別警戒区域、津波浸水想定、洪水浸水想定、内水氾濫浸水想定、(6)開発事業の動向として、共同住宅の建設予定などが考えられます。</p> <p>学校施設整備の優先順位付けは、これらの項目の評価基準を設定するなどにより、総合的に判断していきたいと考えています。</p> <p>次に2の緊急を要する学校施設の選定についてです。</p> <p>学校施設整備の優先順位付けについては、今後、一定の考え方を示し、委員の皆さまに議論していただきたいと考えています。</p> <p>しかし、現に教育活動上の支障が生じている学校があり、教育委員会としても早急な対応が必要であると考えています。そのため、特に教育活動上の支障が大きいと考えられる学校については、学校整備計画の策定（優先順位付け）に先行して、対応手法等の検討に着手したく、委員の皆さまの御理解を賜りたいと考えております。</p> <p>以上で説明を終わります。</p>
高橋会長	ただいまの説明について、質問等がありますか。
黒木委員	二番目に現に教育活動上支障が生じている学校と記載がありますが、具体的にどんな支障ですか。
事務局 (下澤課長)	例えば、特別支援学級の全校設置を目指しており、今年七里ガ浜小学校に設置していますが、これが終わると残すは稲村ケ崎小学校と山崎小学校になります。稲村ケ崎小学校は小学校の一教室を子どもの施設として使っていることもありスペースがなく、山崎小学校は児童の数が多く、教室がぎりぎりの状況で校舎内につくれない状況です。そのような状況ですが、特別支援学級の設置を望まれている方もいらっしゃるのでは、そういったところは早急に対応しなければいけないと考えています。
高橋会長	他に何かありますか。
渡辺副会長	公共施設再編計画の学校施設の中に短中長期での整備内容が書かれており、短期では大船小学校の建替えと書いてあり、最終的に長期で統廃合に

	<p>についての検討をするとなっています。公共施設再編計画の見直しは令和5年度中に完了させると聞いていますが、統廃合についても具体的な学校名という形で令和5年度に出てくると理解していいですか。</p>
事務局 (下澤課長)	<p>将来的には統廃合の話は出てくると思います。次の議題の委託業務の中で児童・生徒の推計を紹介しますが、統廃合の具体的な内容については、令和5年度中の再編計画の見直しではお示しできないと考えています。</p>
高橋会長	<p>先ほど説明のあったようにこの項目に基づいて総合的に整備する学校の優先順位をつけていくということだと思うので、何か気づいたことがあればお寄せください。緊急を要する学校施設ということで、特別支援学級の話がありましたが、全学校に設置している地域も結構出てきていると聞いているので、この辺も緊急な部分はあるのだなと感じました。</p> <p>他にご意見がなければここまでにしたいと思います。</p>
<p>内容 学校整備計画策定支援業務の進捗報告</p>	
高橋会長	<p>事務局から説明をお願いします。</p>
事務局 (萩原係長)	<p>内容3「学校整備計画策定支援業務の進捗について」を説明いたします。資料は、資料4「学校整備計画策定支援業務の進捗について」になります。</p> <p>第1回協議会において、「学校整備計画」の検討に必要な、(1)既存不適格建築物の確認、(2)施設整備における検討事項の整理、(3)児童生徒数及び学級数の推計、(4)施設整備の実施計画の支援業務を委託していることを説明しました。本日は、支援業務の検討状況として、将来の児童生徒・学級数の推計について報告いたします。</p> <p>資料4「学校整備計画策定支援業務の進捗について」を御覧ください。</p> <p>この資料は、小学校と中学校に分類し、和暦は表記していませんが、それぞれ2022年度(令和4年度)の児童生徒数と学級数を基に、2030年度(令和12年度)、2040年度(令和22年度)、2050年度(令和32年度)、2060年度(令和42年度)の児童生徒数と学級数を推計したものになります。今回の推計は、第3次鎌倉市総合計画第4期基本計画策定用として、基本計画に位置付けた施策の推進により、死亡者が出生者数を上回る「自然減」を緩やかにするとともに、本市への転入者数が本市からの転出者数を上回る「社会増(転入超過)」を活性化し続けることで達成される方法に合わせています。</p> <p>第4期基本計画では、各施策の推進により、今後、人口減少が見込まれる中で、雇用の創出とともに、出産・子育てと仕事の両立の支援を進め、鎌倉で働き、暮らすという新しいライフスタイルを定着させ、特に若年ファミリー層を中心とした子育て世帯の転出を抑制し、転入を促進します。また、深沢地域の開発事業なども通じて、継続的な社会移動の活性化を目指し、また、子育てしやすい環境を整えることで、次代の鎌倉を支える年</p>

	<p>少人口の確保に努め、令和 42 年（2060 年）に合計特殊出生率 1.73 を達成、年齢構成バランスに配慮しながら自然減を緩やかにしていきます。</p> <p>簡単にまとめると、市の施策の実施によって、出生率の向上による自然減の克服と社会増（転入超過）の継続が叶えられた場合の推計ということになります。</p> <p>表の後ろに折れ線グラフで推計を示しているのを御参照ください。</p> <p>第 4 期基本計画の施策を踏まえると、児童生徒数は 2030 年度（令和 12 年度）にかけて一旦減少しますが、その後増加する傾向であり、学校によっては、現在よりも児童生徒数が増加することがわかります。</p> <p>学校整備計画の策定に当たっては、この推計結果を基に検討していきたいと考えています。</p> <p>以上で説明を終わります。</p>
高橋 会長	<p>ただいまの説明について、質問等がありますか。</p> <p>在住の委員の皆様からみると肌感覚的にもいかがでしょうか。</p>
渡辺 副会長	<p>これはこれとして資料はわかりますが、地域の特性を活かすという話がありました。地域的にどのような人口構成に移り変わっていくのかというところ、特に高齢化率は非常に気になるところです。そのようなものが一表になっているものの方が、地域の特性を活かした今後の学校施設計画を考えていく上で必要だと思います。同じものを同じようにつくるのではなく、地域の特性を踏まえるということは今後の人口構成がどうなるのか、特に昭和 40 年代大規模開発されたところの分譲地なんかは高齢化率は一段と進んでいます。こういったところにある学校はどうあるべきなのかを考える上でも全体の人口構成の推移がわかる資料にしていきたいということ意見を言っておきます。</p>
高橋 会長	<p>本件、事務局いかがですか。</p>
事務局 (下澤課長)	<p>見やすい表になるように検討します。</p>
高橋 会長	<p>地域の拠点化という言葉が出ていることもあるので、地域の拠点化という観点から考えて地域の人口構成ということが気になってしまうと感じます。他にありますか。</p>
佐藤 委員	<p>質問ですが、この表をみると 2030 年の 7 年後、山崎小学校が低くなっていると思うが、センチュリーモータースクールがあった場所に大きいマンションができ、そこのマンションの子どもが山崎小学校で吸収しきれないから、3 か所くらいの学校で分けるという話を聞いており、その候補に富士塚小学校も上がっていると聞いています。あと、再開発の深沢がこの間否決され、地震の際も災害拠点ができ、避難場所ができると安心していましたが、そこの再開発が無くなってしまったので、富士塚小学校の人口もそこ</p>

	<p>があったら上がる予定だったのかなど、その再開発を見込んでの表なのかなというのが疑問に思いました。</p>
<p>事務局 (下澤課長)</p>	<p>センチュリーモータースクール跡地のマンション建設による児童・生徒数は含まれていないと思います。深沢は3,000人規模の住宅だったかと思います。開発の動向は含まれていないと思われませんが、確認します。</p>
<p>高橋会長</p>	<p>委託先も鎌倉在住ではない場所ですよ。開発状況等は情報提供しないとわからないかもしれませんね。他にありますか。</p>
<p>梨本委員</p>	<p>これまでの議論の中、資料2で示していただいたような素敵な空間イメージのような学校ができたらよいなと思っています。人数が多い、拠点となる学校については、いろんな機能が充実したスペースができたりするかと思いますが、少なめの人数の学校については、多機能の教室の構成であったりそのような設備の充実は行われるだろうかというのが心配なところなので計画的に行ってほしい。特別支援教育についても、特別支援学級ということで話がありましたが、通級の指導についても考える必要があるかと思っています。どのような配置にするのかとか通学も含めて考えていけないといけないので、子どもの数から気になったところです。</p>
<p>事務局 (下澤課長)</p>	<p>学級数は今後適正な規模を考えて、皆さまに御意見をいただきたいと考えています。資料を見ると、稲村ヶ崎小学校は1学年1クラスぐらいの推計になっていますが、1学年1クラスでいいのかなど、委員の皆様は御意見を伺っていきたいと思っています。おっしゃるとおり、そういった学校を存続していくのか、それとも学校を統合していくのかなど、色々な考え方があると思いますが、そういったことも示していければと考えています。</p>
<p>事務局 (佐々木部長)</p>	<p>通級については、現在小学校には設けており、ニーズには対応できていると判断しています。ただし、小学校で通級に通っていた子どもたちが中学校に進学してから、通級教室が必要なのか必要でないのか、これまでアンケート調査を行いました。よい結果を得られなかったため、再度ニーズを把握して必要性を判断していきたいと考えています。通級が必要ということになれば、学校施設の中でどこにどのように入れていくのか、全校に入れるのか拠点化していくのかということも御議論いただければと思います。</p>
<p>高橋会長</p>	<p>今の質問というと児童・生徒数でカウントしているけども、施設ということを見ると、学級数になる。それは特別支援を要する学級や様々なニーズに対応した教室ということが、子どものニーズとは関係なくより一層必要になるという可能性を考えた場合は、人数の推計では学校施設の検討には十分ではないのではないかというような質問に聞こえましたが、いかがでしょうか。</p>

梨本委員	<p>今までの議論を伺っていて、特別支援学級を設置する方向にもっていくという流れで話をつないでいきましたが、インクルーシブ教育というものもあります。バリアフリーということを超えてインクルーシブということで、特別支援学校もそうですが、通級の子どもも増えている。普通の教室の中で支援の先生がいて、インクルーシブ的な教育ができるというもの一つの方向性ではないかと思っています。ですので、必ず特別支援学級をつくって分離していくという考え方一方でインクルーシブ教育というような考え方もあります。その場合は、先生方の配置や施設設備の充実は必要になってくると思うので、意見として申し上げます。</p>
高橋会長	<p>世界的にも話題のところで鎌倉市がどうするかというところではありますが、そういう考え方と一緒に学んでいくのかいろいろ意見があるかと思っています。事務局なにかありますか。</p>
事務局 (佐々木部長)	<p>当然のことながら、インクルーシブ教育の実現化は必要であり、取組を進めていこうとしているところですが、実際に先生の配置や施設の整備が課題になるところもあります。そこをどのような形にしていくかということも皆さまに御意見をいただきながら検討を進めたいと思っています。</p>
高橋会長	<p>私の感覚ですと、インクルーシブにしようが学級にしようが基本のスペースは必要かと思っています。定員ぎりぎりの教室 64㎡ではいろいろなことに対応していくことができないと思っています。今日オンラインになってしまった理由は、明日の大学入学共通テストで特別な支援を要する受験生対応があるため、大学としても特別なスペースが必要であり、特別な研修があったりする。簡単でない話だと思いますが、教室スペースを考えていくと今後の支援教育をどうしていくのかということと関連して、子どもの人数だけじゃないところで、学校施設の面積も決まってくるのかなと感じたところです。他にご意見が特になければ本日は以上としたいと思います。事務局から事務連絡をお願いします。</p>
事務局 (下澤課長)	<p>次第にありますその他については、本日はございませぬ。次回の協議会については、3月27日の午前中に予定させていただいています。開催が近くなりましたら改めて御連絡いたしますので、よろしくお願ひいたします。</p>
高橋会長	<p>今日は活発な意見をいただきました。事務局の方でも調整をいただき、反映していただけるのかなと思います。引き続きよろしくお願ひいたします。これをもちまして、第3回鎌倉市学校整備計画検討協議会を終了します。</p>